

午前10時00分

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 欠席委員連絡（斉藤委員）

午前10時00分開議

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

- (1) 函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、これまでの調査の内容をまとめた資料を各委員にお配りしたところである。前回の委員会では、各委員から行政調査を踏まえた御意見やお考えなどをお伺いしたところであるが、本日は公共施設の整備について、配付した資料の別紙に記載の調査ポイントである、人の流れを生み集客できる施設、様々な人が利用し交流が促進される施設、以上の2点を踏まえ、新たな公共施設の在り方や今後の事業の進め方について、各委員から御意見やお考えなどをお伺いしたいと考えているがよろしいか。（異議なし）
- ・ 早速進めさせていただく。それでは、各委員から御発言願いたい。
- ・ 別紙の調査ポイントの2つについて、お考えを聞かせていただければと思う。

○工藤 恵美委員

- ・ 視察をさせていただいて、まちの様子が函館市と違うということで、参考になるかならないかは疑問だったが、まちを一生懸命つくろうとする、自分達のまちをにぎやかな交流のある場所にしたいというのは、ひしひしと伝わってきたので参考になった。
- ・ 私たちの、人の流れを生み集客ができる施設と様々な人が利用し交流が促進される施設、これは全く理想であって、函館の地形とか、西部地区から駅前、五稜郭と人が住むところが移動してきている流れがあって、それをどう食い止めるかというのは、ただ単に施設があればいいということではなく、函館の全体を——教育機関から始まって全体を見なければいけないと思うので、今後の在り方だが、漠然とした理想形ではなく、もっと現実的なところに目を向けて調査していくことが必要ではないかと思っている。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 今回の調査というのが、今、市のほうで再開発事業の中に公共施設を入れて、そこに人を呼び込むような施設を考えているということで、その調査ということだが、その中で新たな公共施設の在り方とか、様々な人が利用し交流が促進される施設とか、そういう施設を具体的に何がいいということとはなかなか難しい問題だとは思いますが、その辺について、大門地区に公共施設を入れた場合に、そこで人の流れをつくれるのかどうかという議論を進めたいというふうに思う。

○工藤 恵美委員

- ・ 今、博物館構想のたたき台で意見を集めている状態だが、例えば博物館というのは集客施設——今は例えば、建物自体を楽しむ、中の展示物を楽しむ、そこにある飲食店とかを楽しむということで、私たちが見てきた柏市もそうだったが、コンパクトながらも、そういうものを兼ね備えたところが交流の場であり、にぎわいを創出できるのではないかと思うので、博物館を例えばこの地域に持ってきたいとしたら、土地がないのではという心配もあるので、その土地をどう確保するのかとか、総体的なものを考えなければならぬと思っている。土地がないから違うことを考えようとか、小さいものなのか、きちんと博物館なりをこれからつくとすれば、函館で大きいものとなると博物館構想になると思うが、それをどのように考えるのかということも併せて、まちづくりとして、経済建設常任委員会で調査したいと思った。

○島 昌之委員

- ・ たまたま、今日の北海道新聞に「百貨店閉店その後」ということで「行き着いた先は高齢者施設」こういう記事が載っておりました。駅前にあった百貨店が様々な取組をしていたが、最終的には商業施設ではなくて高齢者施設。今日が第1回目だから、今後どういう展開をしていくかよく分からないが、非常に身につまされるような内容だったと思っている。それで、パレット柏での質疑の中に、図書館だけを整備する時代ではないということで、市民が集える交流機能を持った図書館、こういうふうなところからいろんなものがスタートしていると思う。私が思うのは、函館市民にとってどういうニーズがあるか、近隣町村の人たちにとってもどういうニーズがあるか、それから函館以外から来るいわゆる観光客——これは国内の人もいれば、あるいは海外の人もいる。市民、近隣町村、それから観光客、こういうふうな人たちのニーズがどういうものがあるのかというのをできるだけ把握して、そこに合致するものがどういうものがあるのかということの一つ考える必要があるのではないかと思っている。
- ・ パレット柏の利用団体数が3,133団体ということで、実は似たようなものが十字街のまちづくりセンター。あそこに函館で今現在登録されている団体が321団体——約1割——ただもっと厳密にいうと、321団体登録しているが休眠状態にある団体が相当数あるのではないかとまちづくりセンターの職員の方は言っている。そうすると市民の底上げみたいな、本当にまちづくりセンターは相当利用率も高いし、いろんな人があそこ集まっていると思うが、その10倍の裾野がパレット柏にはあると思う。だからそういういろんな活動できる個人、それから団体、そういう人たちをサポートするような取組ということも、また必要なかと思っている。
- ・ パレット柏のことでもう一つ言うと、デパートのそごうが撤退して、今どういうふうになっているかという質問に対して、手つかずで、そもそもそごうも再開発で造ったビルだと。こういうふうな再開発で造ったビルがそういう状態になっているということも、かたや柏市では現実的にあると。そうなったときに函館駅前の、どういうものかいいのかということで、私なりにもいろいろ考えてみたが、いい知恵がない。
- ・ でも一つ参考になるのは、昨日の道新とか函新にも出ていたが、函館大学のサテライト。これが閉鎖するという——十字街のところにある——例えば、函館はキャンパス都市で、8つの高等教育機関があつて、相互に単位を取得できると。そうすると、この前、北大水産学部の学生さん

たちと色々な意見交換をしていて、やはりまちとか函館に対する思いを持っている人たちもたくさんいるなど。ただ大学同士のそういう交流だとか、単位を相互に交換できるみたいなことがあまり知られていなかったと思うので、若い人たち、学生さんたちがサテライト的なもので、そこに単位を取得できるようなものを計画的に、様々なメニューやプランを用意しておくということで、いろんな若い人たちがそこに集まってくるきっかけになるのではないかというふうな思いがある。これは一つあるかと。

- それから、大和市のことをいろいろと調べると、確かに図書館城下町ということで、図書館がキーワードにはなっているが、もっといろいろ調べてみると、健康都市というのが、もっと基本にあるキーワードかと。まちの健康、人の健康、社会の健康、この3つの健康ということで、まちをどうやってつくっていったらいいかということでそれぞれにいろんな施策を講じている。そしてシリウスの中にはいろいろな事業が展開されているが、大和市の課題というのは独り世帯がすごく増えてきている。これから高齢社会になっていった時に、独り世帯、独り住まいの高齢者とか、若い人もそうだが、孤立、孤独に陥らせないために、まちの中に引っ張り出す施策をいろいろやっている。その一つがシリウスではなかったかと思ひ、そうすると例えば、駅前、棒二の跡に何かできる。ではそこに行ってみようみたいな、居場所づくり、居場所になるようなものが必要なのかと。引っ張り出すための力、引力を持つような、そういう機能を持った施設、ですから図書館機能だけにこだわらなくてもいいのかと。もっと本当に函館が抱えている課題というのは、やはり少子化と高齢化。これに対してどういうふうにして対応できるかと。それで若い人たち、学生の力を引き出すようなキャンパス都市函館のようなものと連携した取組とか、例えばキーワードは健康だったが、函館にとってもこれは非常に大事な取組でないかと思うので、例えば医療機関が西部地区でどんどんなくなってしまった場合に、その間どうするのかとか、健康ということ 키워ワードにしていろんな方にそこに来てもらい、そして3,133団体の柏市まで及ばないまでも、やはり個人、団体、市民のそういう人たちの活動ができるような底上げをサポートできるようなものができれば、そこに様々な人が集ってくる、そういうところに繋がるのではないかと、そんな思いでいる。

○松宮 健治委員

- 正直な話、まずシリウスに関しては良すぎて函館の参考にはあまりならないかと、正直な実感である。かなり予算規模も違うし、まちの中心にある。いろんな交通機関があそこに集約されて、初めから人を集める図書館機能を集約するというコンセプトなので参考になりそうで、ちょっと高嶺の花かと正直思った。やはり身の丈に合っていたのはパレット柏のほうかと思っている。パレット柏はどちらかという地味なのだが、よく読んでみると、人通りが増えたとか、周辺の商業施設を使っているとうたっているから——そういう結果も出ているから、かなりこちらのほうが僕は参考になるかと思っていた。
- もう一つ大事な視点は、やはり首長が変わると方向性も変わるということを正直にお伺いしたので、来年の市長選もどうなるか分からないが、そういうことも——今までの工藤市長が継続となるか、新しい方になるかによって結構揺れ動くかと思っているので、そういうことも頭に置かなくてはいけないかと思っていた。
- それから、どうしてもこの駅前・大門地区というのは、函館市の顔というイメージで話を進めてき

たが、そういうことをやっていくとシリアスに行き着く。そういうことをイメージしてしまうと。でも現実、函館にはそぐわない。今、島委員もおっしゃったように、高齢者が増えてきている、あるいは単身者も増えてきている。もう一つは若い人も何とかしたいということであれば、やはり施設としてはちょっと地味すぎるかもしれないけれども、反対を受けるかもしれないけれども、ある程度僕は高齢者の視点が実はとても大事だと思っている。そうなる顔にならないのでないかと言われるかもしれないが、例えば、高齢者の方が何に困っているかという、いろいろ議会で質問するとき、市としてはホームページで発信しているというが、そのホームページすら見られない高齢者の方が現実多い。マイナポイントが付くと国政でも訴えて——私どもも訴えてきたが、実際、マイナポイントを獲得してやっている方は結構少ない、ハードルが高くて。細かいことだが、そこに行くとそういうことを設定してもらったり、相談に乗ってもらったりというような、高齢者に限らなくてもいいが、例えばこれからITが様々進んで、デジタル化が進んでいくが取り残される方々がいらっしやる。だからデジタル化にこぼれていく方を拾い上げていくような相談機能とか、集約がとても必要かと、その視点を私はぜひ持つべきだろうと思っている。

- これはかなり飛躍するが、やはり少子化と高齢化は別問題だと思うが、結婚のことを考えている方は結構多い、私の周りにも。まだまだ未婚の若い方々も多いので、市としてもだんだんと腰を上げてきたが、例えばここに行くと、結婚相談所というところちょっと語弊があるので、将来に関して若者が相談できるような機能で、今、地域包括支援センターが市内10か所——ランチも入れるともっと増えるかもしれないが——そこで様々な相談機能を持たせているが、ここにある意味では地域包括支援センターの役割的なものも一つくらいあってもいいのかと——ランチ、出張所でも——そういう機能も入れてはどうかと思っている。しゃべっていることはとても地味でアカデミックではないが、若者の視点、高齢者の視点、デジタルから取り残される方々を救える、そこに行くと何とか解決できると。これは市民に特化した、旅行者にはあまりないと思うが、僕はそういう視点が必要かと思って、あまり函館の顔ということばかり意識してしまうと、こういう視点はどうしても抜け落ちてしまうので、そこは思い切って——これから首長の意向が結構大きいと思うが、そういう視点を思い切って持つべきかと。とにかくそうすると駅前であるから、電車でも行けるし、バスでも行けるし、最悪タクシーでも行ける場所にしてしまうのであれば、どちらかというとも西部地区の人たちは問題なくて、美原から遠いところからでもいいのかと。あるいは東部の旧4町村であれば、そこから連絡バスを出してあそこに集めていくということも。人が来れば周辺の商店も多少プラスになると思っているので、思い切って発想の転換をすべきだろうと思っている。ちょっと取り留めがないが、ぜひ今までの顔というものを一回、仮面を捨ててしまっ、建前は捨ててしまったほうがいい、たぶんそうすると市民は歓迎をしてくれるのでないかと、函館の場合特にそう思う。

○紺谷 克孝委員

- 2人の委員とおっしゃっていることは若干、重複するかもしれないが、2都市の調査の中で感じた点は、2都市とも交流の場の中心的なところにあるということである。それぞれ鉄道などが私鉄も含めて交差しているとか、柏市は常磐線の非常に乗降客の多いベッタタウンとしての役割の中心的な、最も人が交流できる場所だと。そういうところと比較して、函館市の場合は駅前というのが、本当に人事交流の中心になっているかということになると、そうっていないと思う。上磯やある

いは桔梗とかそちらの方面から市内に通勤する人などがいると思うが、人の流れとしてはさほど流れていないと思う。したがって2都市のように、その人たちは通るけど、たまたま寄ってもらって、いろいろ興味を持った施設として、その役割を果たすということではなく、函館市の場合だと、むしろわざわざ来くなるような施設というふうなのを目指さないと駄目ではないかと思う、1点目として。そういうことでやはり観光客もそうだけど、とりわけ市民がどうしても来くなるような施設、そうなる市民の要望をよく聞いて、一番要望の多い内容を実現していくというふうにならざるを得ないのではないかと。

- そういう点では、パレット柏は5つの機能を目指していたということで、市民交流センター、市民ギャラリー、市民活動サポートコーナー、国際交流センター、男女共同参画センターということで、5つの機能をしっかりまとめていると思う。だからその中で、函館市としてどこに重点を置くかということこれから函館流に、この5つの機能の中でどれを重点として生かしていくかということが必要になってくるのではないかと。そしてパレット柏では窓口でギャラリーの受付とか、いろいろな備品のこととかが随分揃っているということで、そういうサービスも含めて、この5つの機能の具体化というのが必要ではないかと思う。
- 施設の大きさとしても、松宮委員も言ったが、シリウスはあまり参考にならないと、面積が2万6,000平米ということだから格段に大きいと、そうなるむしろパレット柏の広さが比較的近いのではないかということなので、全体としては、柏市のほうに少し参考にできる材料が多いのではないかと思う。図書館機能については確かに、さっきおっしゃった図書館城下町ということで大和市がそういうふうに行っていると。図書館機能といっても函館市の図書館と、大和市の図書館はちょっと違いがあり、あそこは歴史もそれほどなくて、郷土資料もそんなにないと思う。だから実用的で、役に立つような図書が中心だが、函館市の場合だと、学術・文化、研究の材料、歴史というのが膨大にあるということで、同じ図書館でもちょっと機能が違う内容になっていると思う。そういう点からいうと、準備組合から要望があったということだが、図書館機能を備えたものをそこでつくるとなると、今の千歳図書室以上のものをつくらないと、なかなか市民的な要望に応えていけないのではないかと。亀プラ程度であれば全く市民の期待に応えてないのではないかと。そうなる商業施設の中に千歳図書室以上の図書館をつくるということになると、スペース的な問題も含めて、可能かどうかというのは——まだ私もそこまで検討していないが——可能かどうかというのが少し心配される状況である。そういった点で、商業施設なので、図書館になると学術・文化のことになるので、そういう点でもう少し考える必要があるのではないかと思う。
- 商業施設の3、4階に公共施設ということだが、1、2階が果たしてどのような商業施設になるのかということも非常に重要だと思う。シリウスに行ったときに他の施設もいろいろ入っていたのを見ると、例えば予備校みたいなものも入っていて、だからその1、2階の施設とどのように関連がある公共施設にするかということも非常に大事だと思う。だから準備組合が進めている商業施設の1、2階にどのような施設をつくるのかということも、我々が検討する材料に必要なかと思っている。そういう点でさらにいろいろ絞って検討していく必要があると思う。それと同時に市のスケジュールが非常に曖昧で1、2月の市民説明会が4月に延びてやっさと。当初の計画だと6月末に原案をつくるような流れになっていた。そうするとそれが延びていることは確かだが、どうい

スケジュールでいつ頃までに原案作って、あるいはこの間やってきた施設の方々との話し合いとか、あるいは専門家との話し合いとかというのも市としては多分やっていると思うが、そのあたりが明らかになっていない。その後の変更になったスケジュールの中身がまだ市民に提示されていないということもあると思う。全体として計画が延びたということは準備組合等からあったわけだが、その影響で、公共施設整備についても現在の到達と今後のスケジュールについて、できれば委員会として理事者のほうに明らかにしてもらおうという努力をする必要があると思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ その辺の調整がいたら、理事者からの説明もしていきたいと思っている。
- ・ ほかに御意見あるか。

○工藤 篤委員

- ・ 行政調査報告書の最後のところにこういう文章がある。「函館駅前・大門地区は「函館の顔」ともいえるエリアであり、市民はもとより近隣市町や多くの観光客を迎え入れる拠点となる地域であり、この地域の活性化とにぎわいの創出は函館市にとって最重要課題である。」というような文章がある。そういう意味で、駅前・大門地区にふさわしい公共施設の整備に向け云々として書かれているが、この課題というのはもうずっと続いている。この現状認識——中心市街地活性化事業を相当な市税を使ってやったが、現況のコロナ禍の問題も含めて必ずしも期待したような状況にはなっていない。そしてこの間、函館駅前・大門地区の商業、飲食関係のまちが様変わりしている、これが現実だと思う。だから週末とか、そういうところに、函館駅前・大門地区が一つの函館の顔としてというのであれば、やはり市民はここに集うわけだが、ほとんど集っていない。この現実をどう見るかということだと思う。そこに、たまたま公共施設として、図書館云々と言われている、今のところ。しかしそれでは、今、少なからずそこを利用している人方がたまたま駅前地区に移動するだけである。増えることはないと思う。ここに書かれている観光客を迎えられることはほぼ不可能だと私は思っている。自分が観光客になった時に、図書館に行くか、女性センターに行くか。行かない。この現実をしっかりと見て、どういうふうにしたら観光客も含めて人を呼び込むことができるか、これを抜本的に考えていかなければ失敗する。市税を投入しただけで、公共施設がただ移動しただけに過ぎないというふうになると思う。残念ながら私はそう見ている。
- ・ そうすると、ではどうするのかということになると、はっきり言うと、近隣の方々なり、市民はもとより観光客が、ちょっと寄ってみるかというような施設を——それが公共施設になるかどうかは別にして——考えていかなければならない。噂として、当時、まちなか水族館を導入してはどうかというようなお話があったというのは聞いている。公的な場で私も聞いた。水族館についてはかかっている議論があったと思う。私はその時いなかったのだから、その中身については分からないが、予算規模とかいろんな問題でできなかった。水産のまち函館であるならば、その類のものを——市民、もちろん小・中学生なり、また近隣からも観光客も寄ってくるのではないかと思うので、そういうアイデアを土台にして、抜本的に考えていかなければ、これはただ市税を投入して終わると思っているから、今、スケジュールの関係で遅れているというふうにして私も危惧しているが、逆に言えば、それを一つのチャンスといえれば語弊があるが、時間があるならもう少し考え直していくとか、そういうことをやったらどうかと。大和市の場合も結果として時間はかかったが、予算規模

も相当膨らんだ。膨らんだが、じっくりと考えた結果、今の成功につながっているということを考えたときに、ぜひもう一度考え直していくということが必要ではないかと私は思っている。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ ほかに御意見はあるか。（なし）
- ・ 一通りお聞きしたが、他の委員の発言を踏まえ、さらに御発言あるか。（なし）
- ・ 今後の調査の進め方について、各委員に御相談だが、正副としては、再開発事業における整備状況を見ながら、改めて協議を行っていきたいと考えているが、いかがか。（異議なし）
- ・ その他、本件について、各委員から何か御発言はあるか。

○紺谷 克孝委員

- ・ 理事者が考えているスケジュールを、委員会を開催するかしないかに関係なく、スケジュールを考えて進めていると思うので、ある程度発表できるものについて示していただきたいと思う。そうでないとなかなか委員会自体の対応もそれによってまた違ってくると思うので、そこは理事者のほうに示していただきたいと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 正副のほうでもその辺は危惧していて、昨年の11月に準備組合のほうからスケジュールの見直しについてということで通知があったが、それ以降動きがないような状態で、経済部のほうの動きもどうなっているかというのもあるが、本体のほうの動きの状況を見ながら、その辺の経済部のスケジュールとこちらの調査事件のほうも並行的に進めていきたいと思うので、準備が整いしだいすぐにご説明等もしたいと思っているので、よろしく願います。
- ・ 他に御発言あるか。（なし）
- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については、委員長に一任願いたいと思う。これに御異議あるか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時36分散会